

Japanese A: literature – Higher level – Paper 2
Japonais A : littérature – Niveau supérieur – Épreuve 2
Japonés A: literatura – Nivel superior – Prueba 2

Wednesday 14 November 2018 (morning)
Mercredi 14 novembre 2018 (matin)
Miércoles 14 de noviembre de 2018 (mañana)

2 hours / 2 heures / 2 horas

Instructions to candidates

- Do not open this examination paper until instructed to do so.
- Answer one essay question only. You must base your answer on at least two of the part 3 works you have studied and compare and contrast these works in response to the question. Answers which are not based on a discussion of at least two part 3 works will not score high marks.
- You are not permitted to bring copies of the works you have studied into the examination room.
- The maximum mark for this examination paper is **[25 marks]**.

Instructions destinées aux candidats

- N'ouvrez pas cette épreuve avant d'y être autorisé(e).
- Traitez un seul sujet de composition. En basant votre réponse sur au moins deux des œuvres de la troisième partie que vous avez étudiées, vous devez comparer et opposer ces œuvres dans le cadre du sujet. Les réponses qui ne sont pas basées sur au moins deux des œuvres de la troisième partie n'obtiendront pas une note élevée.
- Vous n'êtes pas autorisé(e) à apporter des exemplaires des œuvres que vous avez étudiées dans la salle d'examen.
- Le nombre maximum de points pour cette épreuve d'examen est de **[25 points]**.

Instrucciones para los alumnos

- No abra esta prueba hasta que se lo autoricen.
- Conteste una sola pregunta de redacción. Base su respuesta en al menos dos de las obras estudiadas de la parte 3, comparándolas y contrastándolas en relación con la pregunta. Las respuestas que no se basen en al menos dos obras de la parte 3 no recibirán una puntuación alta.
- No está permitido traer copias de las obras estudiadas a la sala de examen.
- La puntuación máxima para esta prueba de examen es **[25 puntos]**.

次の問題から**1つ**を選んで、小論文を書きなさい。その際、「パート3：ジャンル別学習」で学んだ、**少なくとも2作品**に言及しなさい。パート3の2作品を使用していない場合は減点となります。なお、小論文を書くにあたっては、必ず作品を**比較・対比**すること。

物語・小説

1. 物語や小説の中には英雄が登場するものがあります。少なくとも2つの作品を取り上げ、作家が英雄(男女は問わない)を描くために用いた技法を比較・対比しなさい。
2. 作家はよく過去の出来事や回想場面を挿入したり、これから起こることを暗示したりします。少なくとも2つの作品を比較・対比しながら、このような技法がどのように用いられ、それがどのような効果をもたらしているか論じなさい。
3. 文学作品において、旅はさまざまな意味を持って使われています。旅がどのように使われているか、少なくとも2つの作品を比較・対比しながら論じなさい。

随筆・評論

4. 「随筆や評論は常に論理的な展開に沿って書かれている」。この見解の妥当性について、少なくとも2つの作品を比較・対比しながら論じなさい。
5. 随筆や評論の全体を理解するうえで、題名や冒頭の書き出し部分がどのように役に立っているか、少なくとも2つの作品を比較・対比しながら論じなさい。
6. 随筆家や評論家はどのようにユーモアを使って読者の関心を引いているか、少なくとも2人の作品を比較・対比しながら論じなさい。

詩歌

7. 少なくとも2人の詩人を取り上げ、詩人の個人的な経験を表現するうえで比喩がどのような役割を果たしているか論じなさい。
8. 少なくとも2人の詩人を取り上げ、詩において正反対なことやものがどのように使われ、それがどのような効果をもたらしているか論じなさい。
9. 「詩の最後の数行は読者に深い印象を残す」。少なくとも2人の詩人を取り上げ、作品の終わり方がどのような効果をもたらしているか論じなさい。

戯曲

10. すべての戯曲には、劇の進行に影響するような何か重大な転機(ターニング・ポイント)がある。少なくとも2つの作品を比較・対比しながら、戯曲家が作品の中でどのように転機を用いているか、その効果も含め論じなさい。
 11. 少なくとも2つの作品を比較・対比しながら、劇における小道具、舞台装置、衣装などの要素がどのように使われているか、その重要性も含め論じなさい。
 12. 戯曲というジャンルでは、登場人物の内面性を表現することが大切である。少なくとも2つの作品を取り上げ、内面性を表現するために戯曲家が用いている方法を比較・対比しなさい。
-